

中田としや議員初質問に登壇

質問時間 中田議員：13時半頃、笹田議員：14時半頃

4月の市議会議員選挙後初めての開かれる定例議会が6月1日から始まっています。そこに提案された議案は順次報告していきます。6月8日(月)には一般質問がおこなわれ、質問にエントリーしている議員は11人、新人議員では中田としや議員含め3人が質問に立ちます。質問時間は、中田議員は8番で13時30分頃、笹田議員は10番で14時30分頃です。

笹田・中田議員の質問要旨をお知らせします。是非傍聴にお出かけください。

大垣市議会議員 笹田トヨ子、中田としや

中田としや 奨学金問題を取り上げる

日本の「子どもの貧困」の割合は、厚労省発表の数値をみても年々上昇し、2012年で16.3%となりました。貧困の連鎖を断ち切るため、子どもに対してしっかりと教育保障が必要です。しかし、高すぎる学費のため、大学を退学・休学を余儀なくされる学生も多く、また、卒業しても非正規雇用の状態では、返済するのが大変とのこと。共産党は「学費無償化」や「高校授業料無償化」の所得制限の撤回を求め、併せて返済不要の「給付制奨学金の導入」を求めています。

大垣市にも独自の奨学金制度があります。月額で貸付金が22500円、返済不要の助成金が2500円です。昭和41年にできた制度で、貸付金は途中で1万円値上げされましたが、給付の額は当時と同じです。この制度ができた当時は、国立大学の授業料が年間1万2千円でしたが、今や60万円に迫っています。

一般質問では、大垣市の奨学金制度で返済しなくてもよい助成金の拡充を求めます。

笹田トヨ子 質問1 養老鉄道存続問題について

「養老鉄道養老線のあり方に関する調査」報告書からも明らかなように、廃線になると年間600万人以上の人々の足を奪うこととなります。市民や地域住民の移動権をまもるため養老線を存続させる立場で、行政は率先して県や国に働きかけることを求め、以下3点について提言し、見解を求めます。

①報告書は養老線を存続させるための現実的な経営改善の提案を行なっているが、沿線の公共交通やまちづくりと一体で政策を作る必要があり、大垣市においてもコミュニティバスも含めた公共交通の現状と課題について整理する総合交通政策の視点が必要です。

②本当に存続させていくためには「乗って残そう」という相言葉があるように、住民参加のもとですすめないと成功しません。また、鉄道だけでなく、交通全般にわたってクルマ社会から脱却し公共交通の利用に移行させるためにも、住民参加によるきめ細かな検討が求められます。市民の力が発揮できるよう、行政は積極的に情報公開を

行い、話し合う場づくりを求めます。

③養老鉄道は2県3市4町にまたがっているということもあり大変難しい課題であり、しかも、教育や地域経済への影響も大変大きい。また高齢化とともに交通弱者の足をどう保障するかといった課題も待ったなしです。このような状況の中、本市としても、岐阜市のように市政の中心に総合交通政策を位置づけ、市長自らリーダーシップをとる「本気度」を示しては如何ですか。

笹田トヨ子 質問2 院外処方への切り替えについて

市民病院の中期計画では院外処方への切り替えを打ち出しています。院外処方のメリットはかかりつけ薬局にて薬歴管理や重複投与や飲み合わせによる副作用の防止など安全性を高めることができます。しかし、かかりつけ薬局への移行には患者さんや家族の理解が前提になります。院外処方切り替えに関するいくつかの課題について質問します。

①院外処方に関するプロジェクトチームを設置して、院外処方切り替え時の影響、導入時期等の検討結果について明らかにしてください。

②消費税率引き上げに伴う影響について、収支状況はどうだったのか。また10%に増税された場合は、どうなるのか。

③院外処方への切替えて、薬剤師の仕事内容も外来調剤から病棟配置にし、入院患者さんの服薬指導やチーム医療の推進などを行うとされていましたが、現状はいかがですか。また、院内処方の外来患者さんへの服薬指導はどの程度行われているのでしょうか。

④中期計画では27年度の院外処方せん発行率72.5%となっていますが、その見通しは？。